

鳥栖市文化財調査報告書第80集

村田三本松遺跡

共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書

2 0 0 8

鳥栖市教育委員会

序

本書は、共同住宅建設に伴い埋蔵文化財調査を実施した、鳥栖市村田町に所在する村田三本松遺跡の調査報告書です。

古墳時代の墳墓が確認され、貴重な資料を得ることが出来ました。

本報告書が地域の文化財に対しての一層のご理解と、学術文化の向上に幾分か寄与するものとなれば幸いに思います。

最後になりましたが、開発と文化財保護との調整に、ご理解とご協力をいただきました、西田明美様ならびに地元の皆様、また発掘作業や整理作業に従事された方々に厚く御礼申しあげます。

平成20年 3 月31日

鳥栖市教育委員会
教育長 中尾 勇二

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に伴い平成19年度に発掘調査を実施した、村田町に所在する村田三本松遺跡の調査報告書である。
2. 発掘調査は、平成19年 5 月 7 日～ 6 月 8 日、整理報告は平成19年 6 月 9 日～平成20年 1 月31日まで、西田明美氏の委託をうけて鳥栖市教育委員会が実施した。
3. 出土遺物の整理及び、報告書作成は牛原町文化財整理室で行った。

(1) 発掘作業	栗山満恵・権藤イツヨ・徳渕直広・長家聖一・中島貞子・中村光子・平田博子 宮地貞子・山下重信・山本美代子
(2) 遺構実測	中島・中村・平田・山本
(3) 遺構・遺物写真	鹿田昌宏
(4) 遺物復原	中村・平田
(5) 遺物実測	中島・山本
(6) 製 図	松崎友子

凡 例

1. 遺跡の略号は村田三本松遺跡（A S M）である。
2. 測定値は遺構についてはm、遺物についてはcm単位とした。
3. 本報告書表示した方位は座標北である。

本文目次

第1章 調査の概要	
I. 調査の経過	1
II. 調査の組織	1
III. 遺跡の位置と環境	2
第2章 調査の記録	3

挿図目次

第1図 村田三本松遺跡調査位置図 (1/2500)	1
第2図 遺跡分布図 (1/15000)	2
第3図 遺構配置図 (1/100)	4
第4図 ST01古墳 (1/40)	5
第5図 ST01古墳主体部 (1/20)	6
第6図 A地点出土遺物 1 1～21 (1/2) 22・23 (1/3)	7
第7図 A地点出土遺物 2 24・25 (1/3) 26 (1/4)	8
第8図 B地点出土遺物 27・28 (1/4) 29～32 (1/3) 33・34 (1/2)	9

表目次

表1 出土遺物一覧表	10
------------------	----

写真図版目次

写真図版1	1. A地点全景（北から）	2. ST01古墳（西から）
	3. ST01古墳主体部（南から）	4. ST01古墳下層遺構（西から）
写真図版2	1. B地点全景（東から）	2. 調査風景（南から）
	3. A地点出土ミニチュア土器	4. ST01古墳下層出土遺物

報告書抄録

ふりがな	むらたさんぼんまついせき							
書名	村田三本松遺跡							
副書名	共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書							
巻次								
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第80集							
編著者名	鹿田昌宏							
編集機関	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地 TEL0942-85-3695							
発行年月日	2008年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
村田三本松 遺跡	佐賀県 鳥栖市 村田町字四本松 343-1、343-3	410213	—	33° 21′ 15″	130° 28′ 55″	2007. 05. 07 ～ 2007. 06. 08		共同住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
村田三本松 遺跡	墳墓	弥生 古墳	古墳		弥生土器 ミニチュア土器		弥生・古墳時代の墳墓	

第1章 調査の概要

I. 調査の経過

平成18年10月26日付けで、西田明美氏より鳥栖市村田町字四本松343-1・343-3について共同住宅建設に伴う埋蔵文化財の確認調査依頼が提出された。対象地域は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、開発面積が2,874m²で、周辺地区で甕棺墓等の遺構が過去確認されていたことから、平成18年11月2日・10日に確認調査を実施した。調査の結果、弥生時代の甕棺墓が確認されたため、隣接する村田三本松遺跡の範囲拡大として周知化した。また、協議をおこない、遺構に影響ある部分の200m²について記録保存を図ることで合意し、平成19年5月7日～6月8日にかけて本調査を実施した。整理作業は、平成19年6月9日～平成20年1月31日までの期間、牛原町文化財整理室で実施した。

II. 調査の組織

発掘調査は鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。調査の組織は以下のとおりである。

調査主体 鳥栖市教育委員会

総括 教育長 中尾 勇二

教育部長 松永 定利

教育部次長 陣内 誠一

教育部次長兼生涯学習課長 伊東 立美（9月まで）

生涯学習課長 中島 光秋（10月から）

生涯学習課参事 藤瀬 禎博・横尾 順二

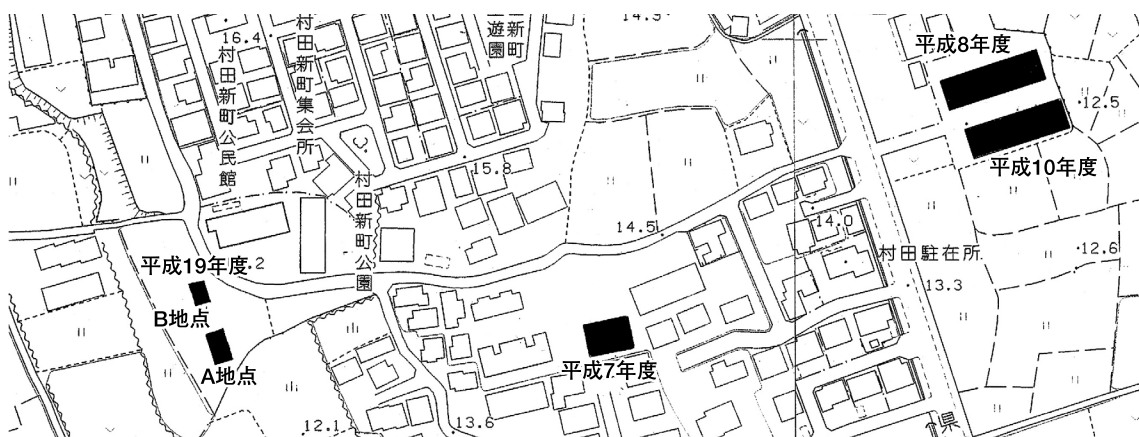
生涯学習課長補佐兼文化財係長 石橋 新次

庶務 生涯学習推進係 主事 田中 美香

調査 文化財係 主査 向田 雅彦・鹿田 昌宏（調査・報告書担当）・湯浅 満暢
久山 高史・重松 正道（6月まで）・高尾 守人（7月から）

主事 内野 武史

調査協力 佐賀県教育委員会



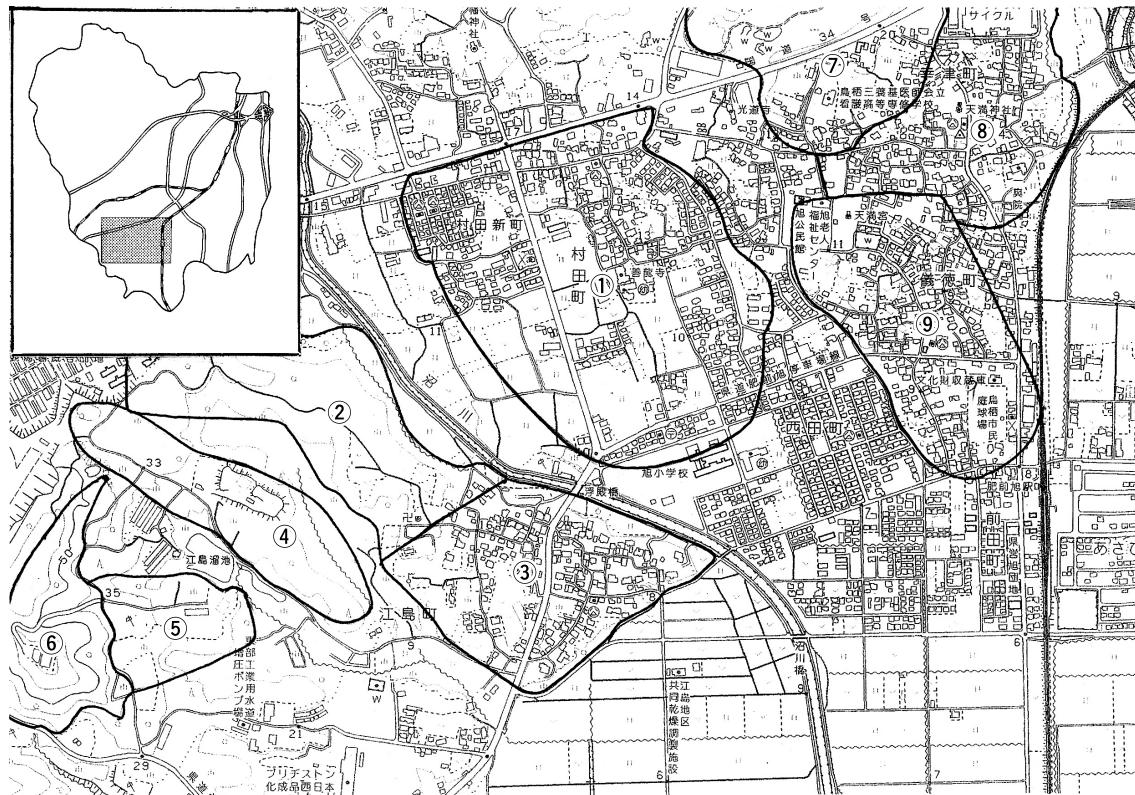
第1図 村田三本松遺跡調査位置図（1/2500）

Ⅲ. 遺跡の位置と環境

鳥栖市は、佐賀県東部に位置し、北は脊振山塊を隔て筑紫郡那珂川町、南は筑後川を境とし久留米市と、東は平野部で小郡市と県境を接し、西は石谷山から南下する丘陵を介して佐賀平野に接する。筑後川の流域に展開する広義の筑紫平野の一角であると共に、筑後平野の西北部を占める位置にあり、佐賀平野との接点にあたる。また鳥栖市は、肥前・筑前・筑後三国の接点であり、古代は大宰府・肥前国府・筑後国府を連絡する官道が設けられていた。近世には長崎街道が通り、田代・轟木の宿場が置かれた。現代においても、鉄道の鹿児島本線と長崎本線、国道3号線・国道34号線、九州道・長崎道・大分道の分岐点となるなど古代以来の交通の要衝となっている。

市内の遺跡は多くが標高80m～15m前後の高位段丘から低位段丘上に位置しており、旧石器時代から近世まで約180箇所の遺跡が確認されているが、沖積平野の展開する南部地域はきわめて希薄になっている。

村田三本松遺跡は、鳥栖市の南西部の村田町に所在し、国道34号線から南に広がる集落と周辺の水田部を含んでおり、朝日山（133m）の南麓に延びる低位段丘上に位置する。昭和56年から5地区で本調査が行われており、縄文時代から古代の遺構が検出されている。遺構は縄文時代晩期の甕棺墓、弥生時代の住居跡、甕棺墓、古墳時代の住居跡、掘立柱建物跡、土坑、古代の掘立柱建物跡等が確認され、広範囲に縄文時代から古代にかけての集落や墳墓が展開していたことが判明している。



第2図 遺跡分布図（1/15000）

- | | | | |
|----------|--------|-------|--------|
| ①村田三本松遺跡 | ②相模遺跡 | ③江島遺跡 | ④天神記遺跡 |
| ⑤狂言谷遺跡 | ⑥西谷古墳群 | ⑦安良遺跡 | ⑧幸津遺跡 |
| | | | ⑨儀徳遺跡 |

第2章 調査の記録

鳥栖市村田町字四本松343-1・343-3に所在する本調査地区は、朝日山の南麓に延びる低位段丘の西端に立地する。共同住宅建設に伴う発掘調査で、建物により影響を受ける約200m²を対象とした。調査地点は、共同住宅が2棟建築されるため2ヶ所設定し、南をA地点、北をB地点として調査を行った。調査前の現況は水田である。

A地点

調査地区の南側に設定した。確認調査時の計画より建物の建設地点を西に移動したため、確認調査時に検出された甕棺墓は確認されず、古墳（ST01古墳）1基と小穴、溝等を検出した。

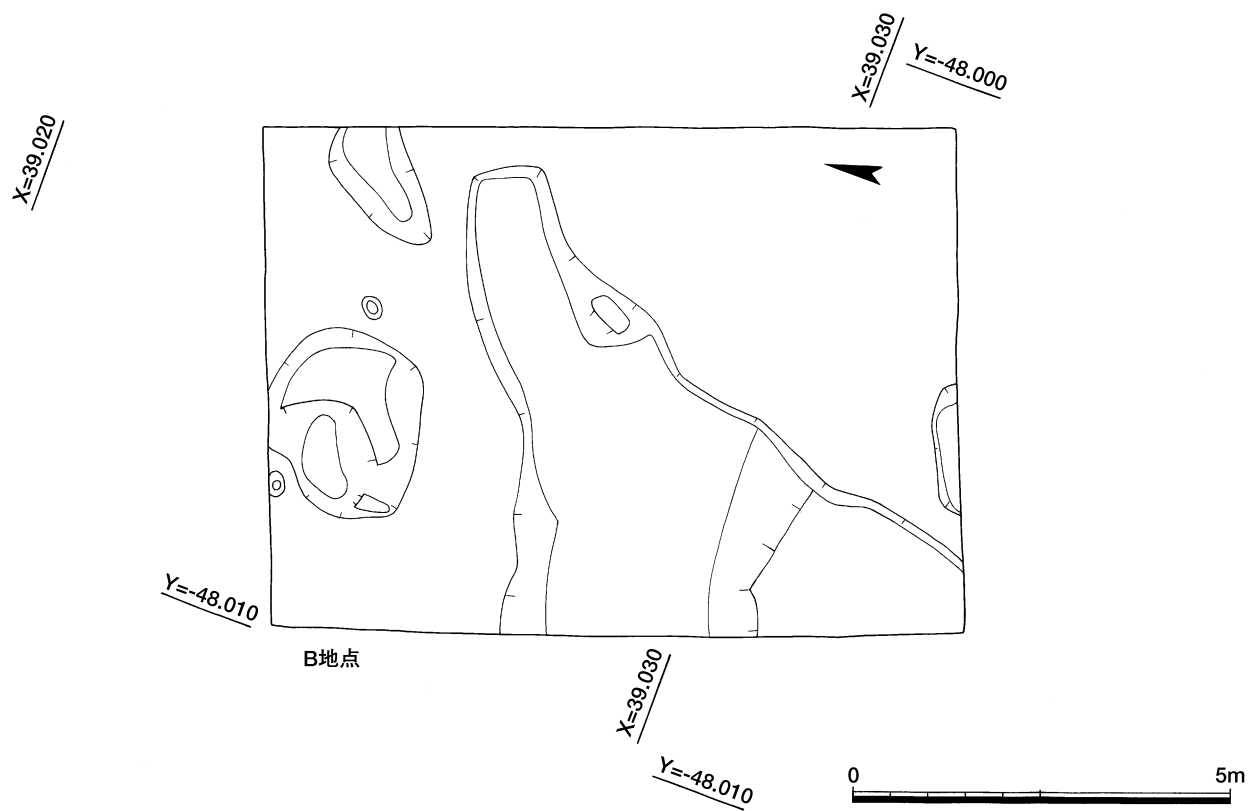
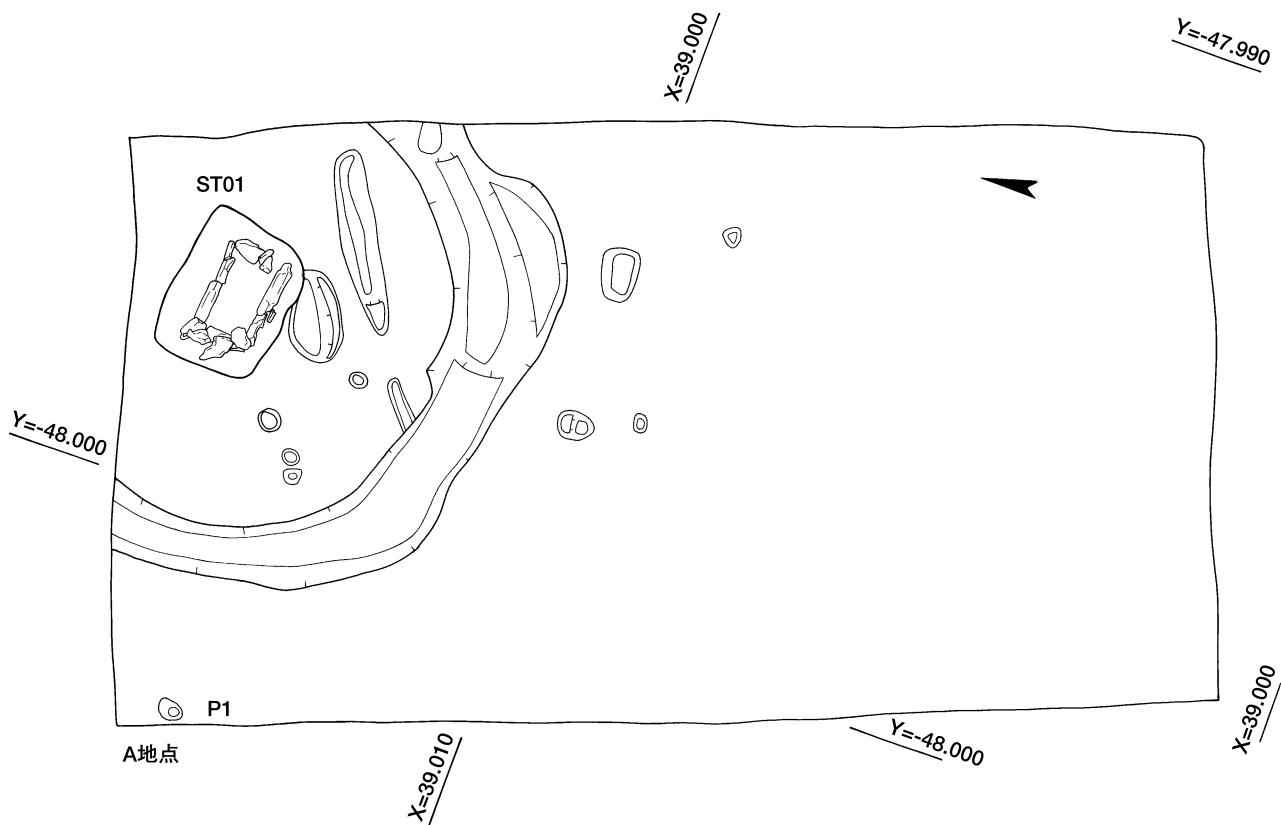
ST01古墳は調査区の北端で検出された。周溝の北側の1／2程度が調査区外にかかるが、直径8m程度の円形と思われる。墳丘は、削平されており残存していない。内部主体は、石棺系で主軸をN78°Wにとっており、西側が破壊されている。遺物は周溝、主体部埋土から手捏のミニチュア土器等が出土している。時期は古墳時代中期と思われる。

また、ST01古墳調査後、主体部の北側に遺構埋土とみられる黒色土が検出されたため、掘り下げを行ったところ、甕棺墓の跡と見られる遺構が3基確認された。また埋土中から甕棺に使用したと思われる大型の甕を含む弥生時代中期の甕、壺の弥生土器が出土しており甕棺墓は古墳築造時に破壊されたものと思われる。

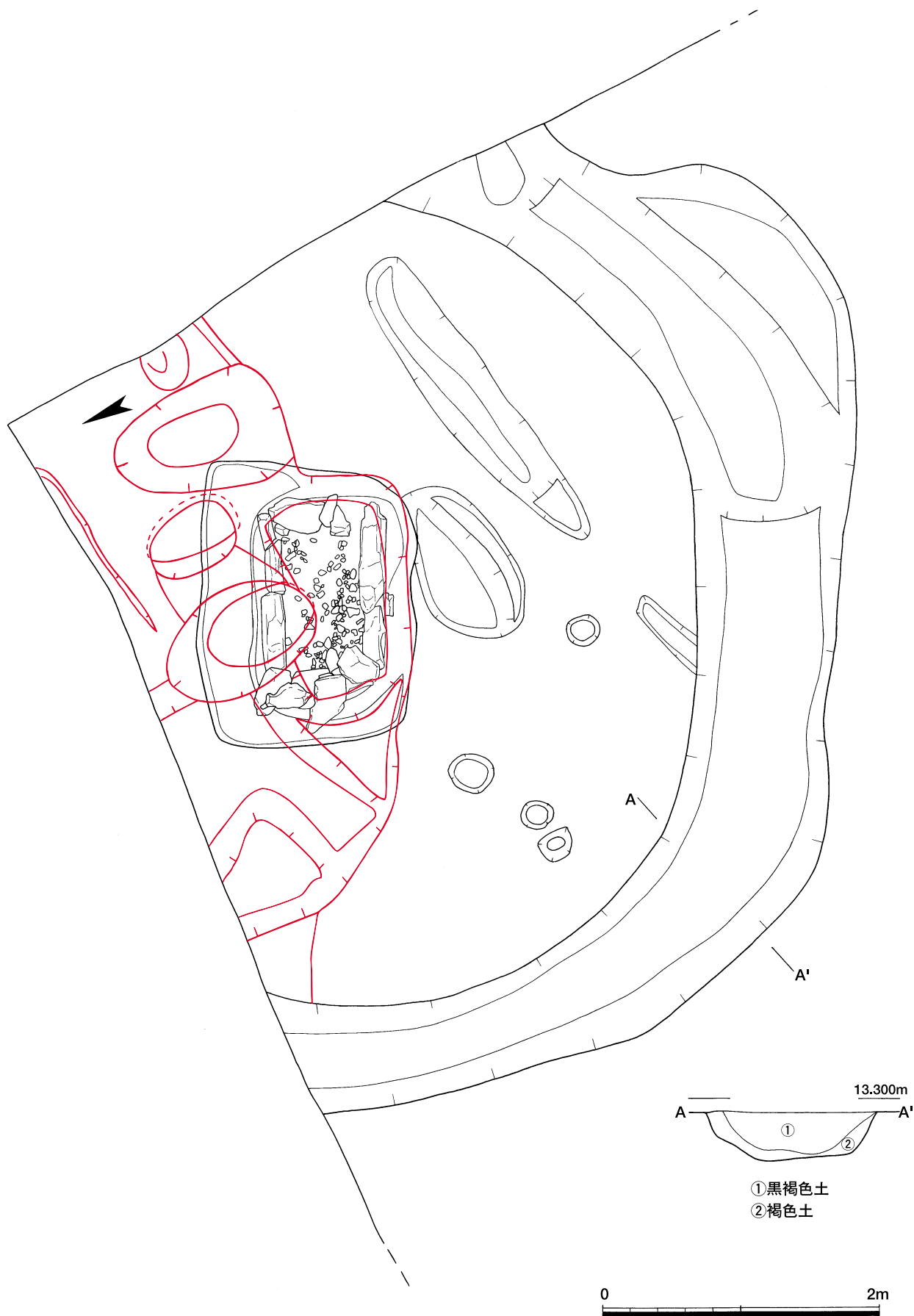
B地点

A地点と同様に、調査地区の北側に設定したB地点も、予定建物の位置が西に移動したため甕棺墓は確認されなかった。遺構検出を行ったところ、溝状の黒色土と土坑状のものが検出された。掘り下げを行った結果、溝状のものは自然地形の窪みに遺物を含んだ土砂が流入したもので、弥生時代中期の甕、壺等の破片が出土した。また、土坑状のものは、埋土の状況から倒木等の痕跡と推定される。埋土中から弥生土器片が出土した。

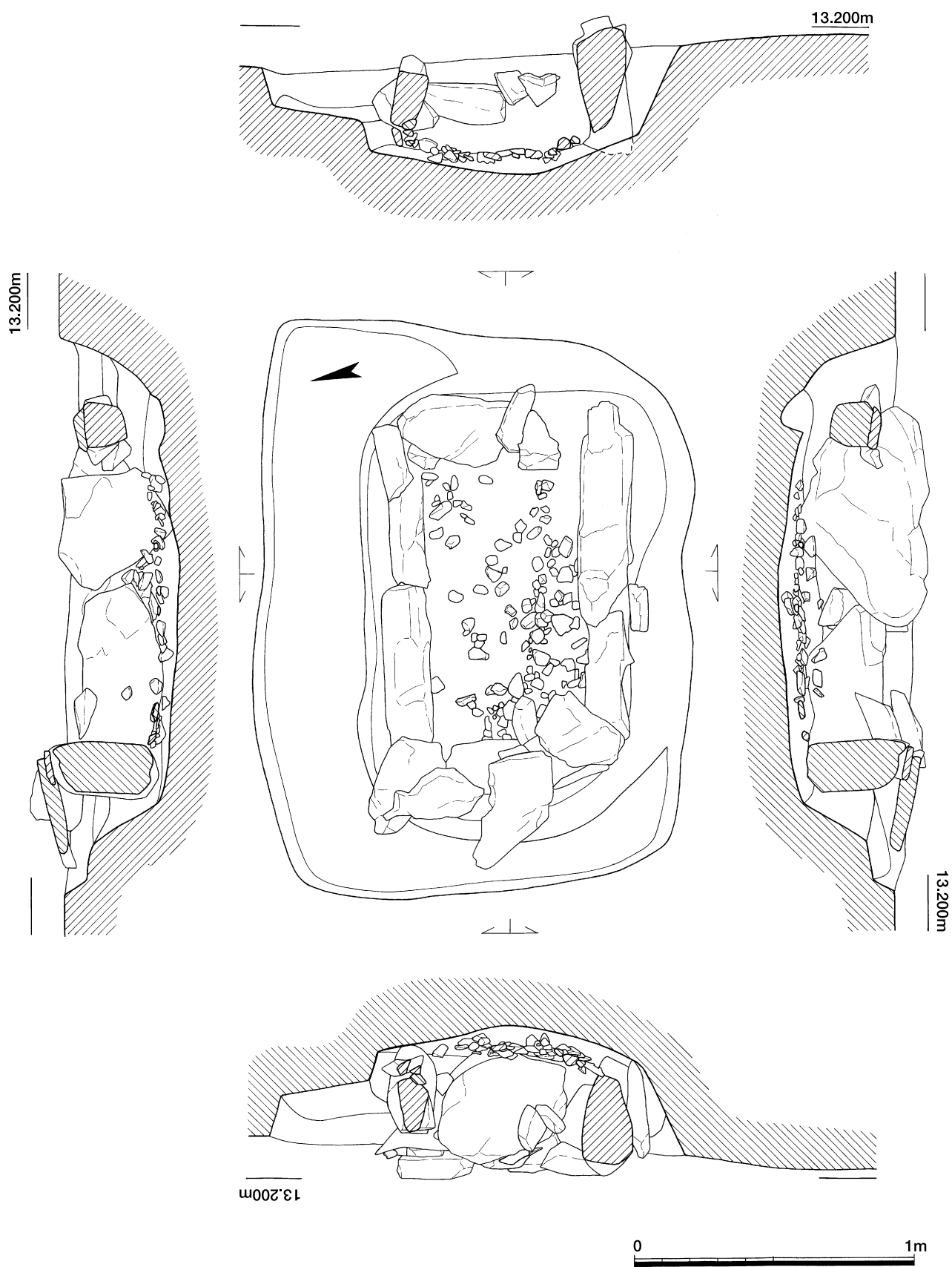
村田三本松遺跡は、これまでの調査で縄文時代から古代にかけての集落や墳墓が広範囲に展開していることは判明していた。今回の調査は約200m²と狭い範囲の調査ではあったが、これまでは古墳時代の遺構としては、集落の存在は確認されていたが、これまで知られていなかった墳墓の存在を確認することが出来た。今回の調査地点は、遺跡の西端にあたると考えられるため、東側に古墳時代の墳墓遺構が広がる可能性も考えられる。また、確認されている古墳時代の遺構は後期の集落であるが、ST01古墳が古墳時代中期と思われることから、今後は、古墳時代中期の集落または、関連する遺構が確認される可能性がある。



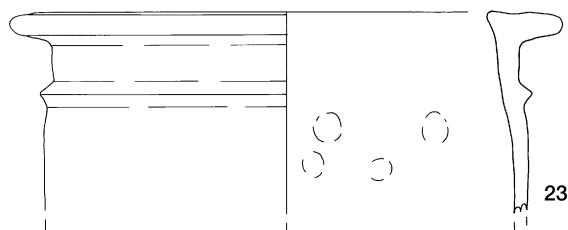
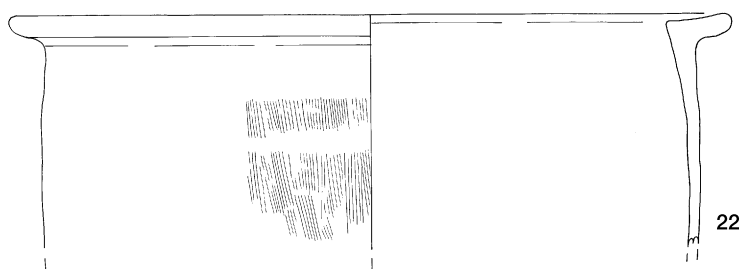
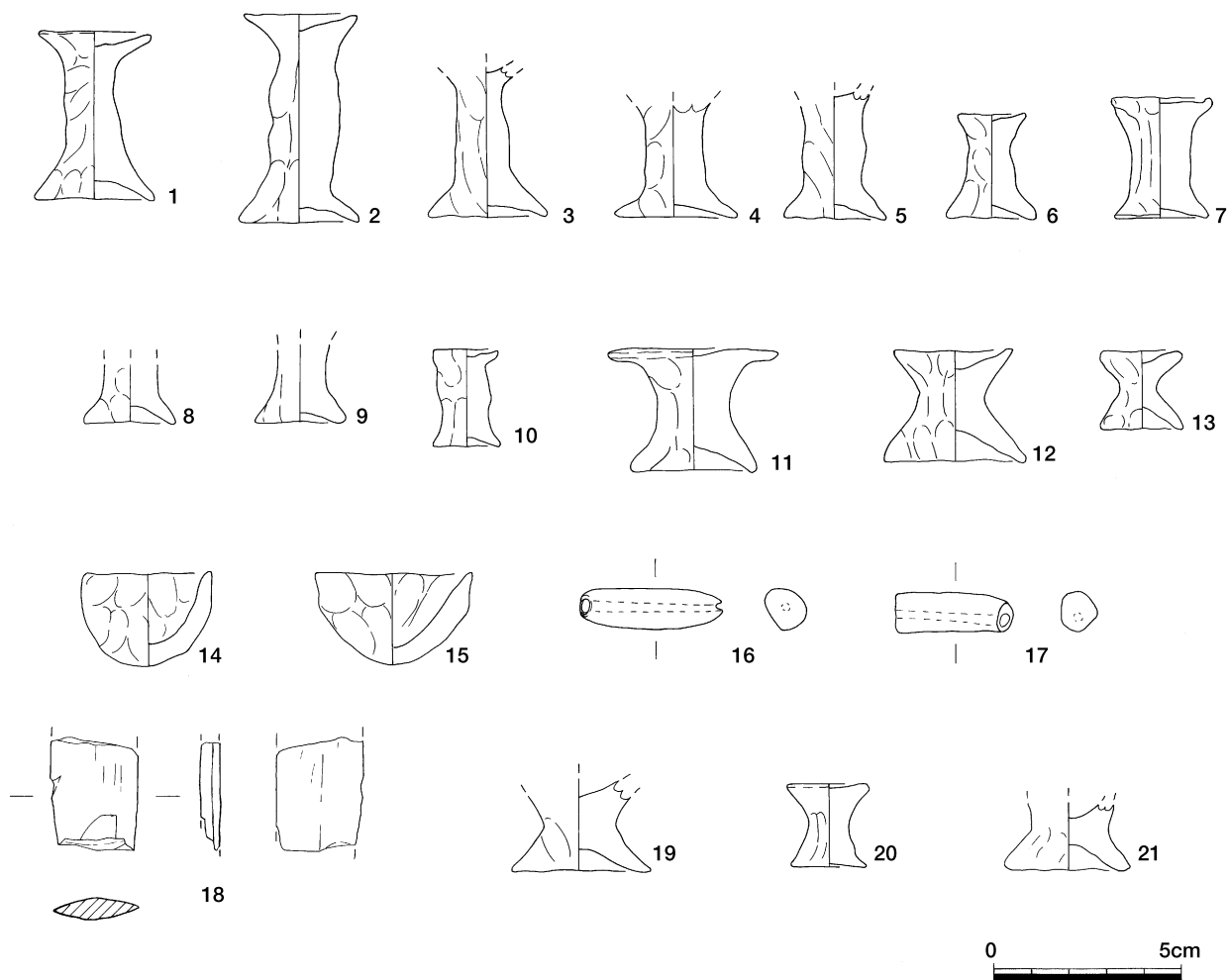
第3図 遺構配置図 (1/100)



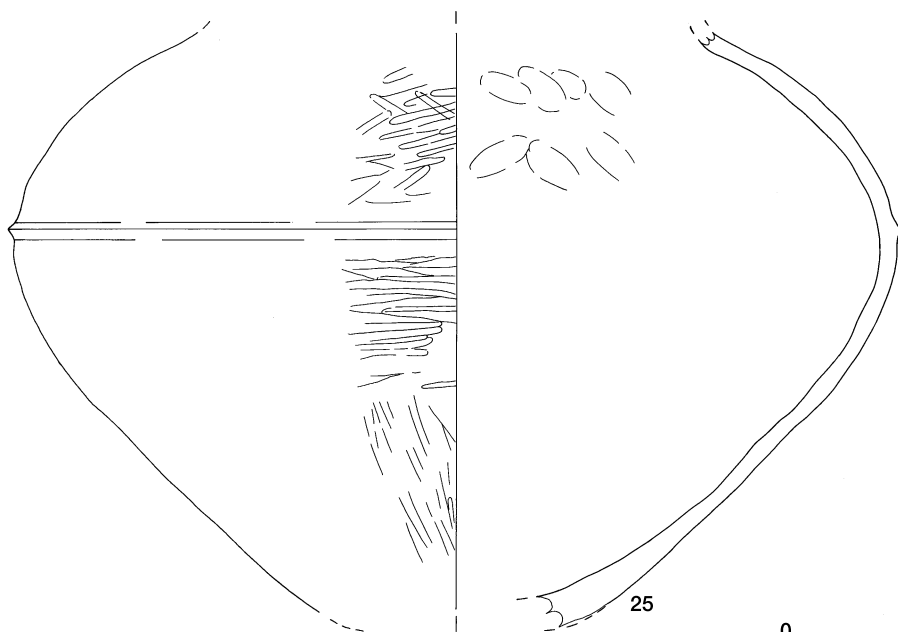
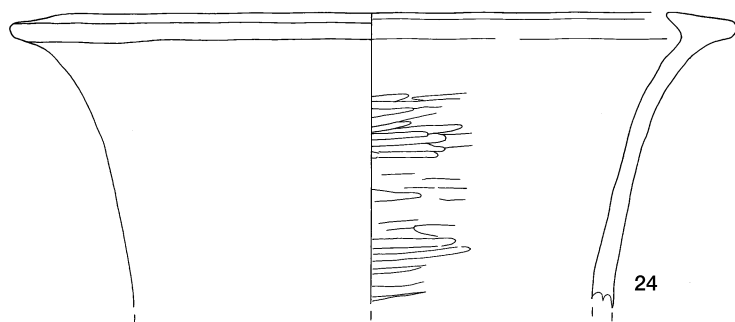
第4図 ST01古墳 (1/40)



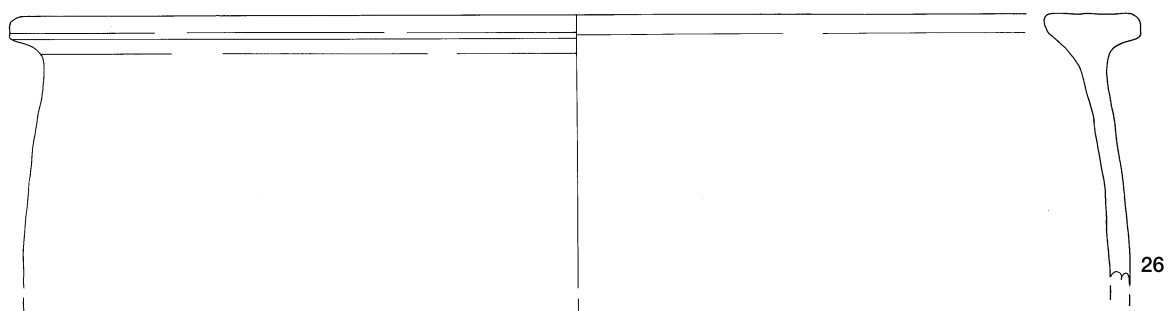
第 5 図 ST01古墳主体部 (1/20)



第6図 A地点出土遺物1 1~21 (1/2) 22・23 (1/3)

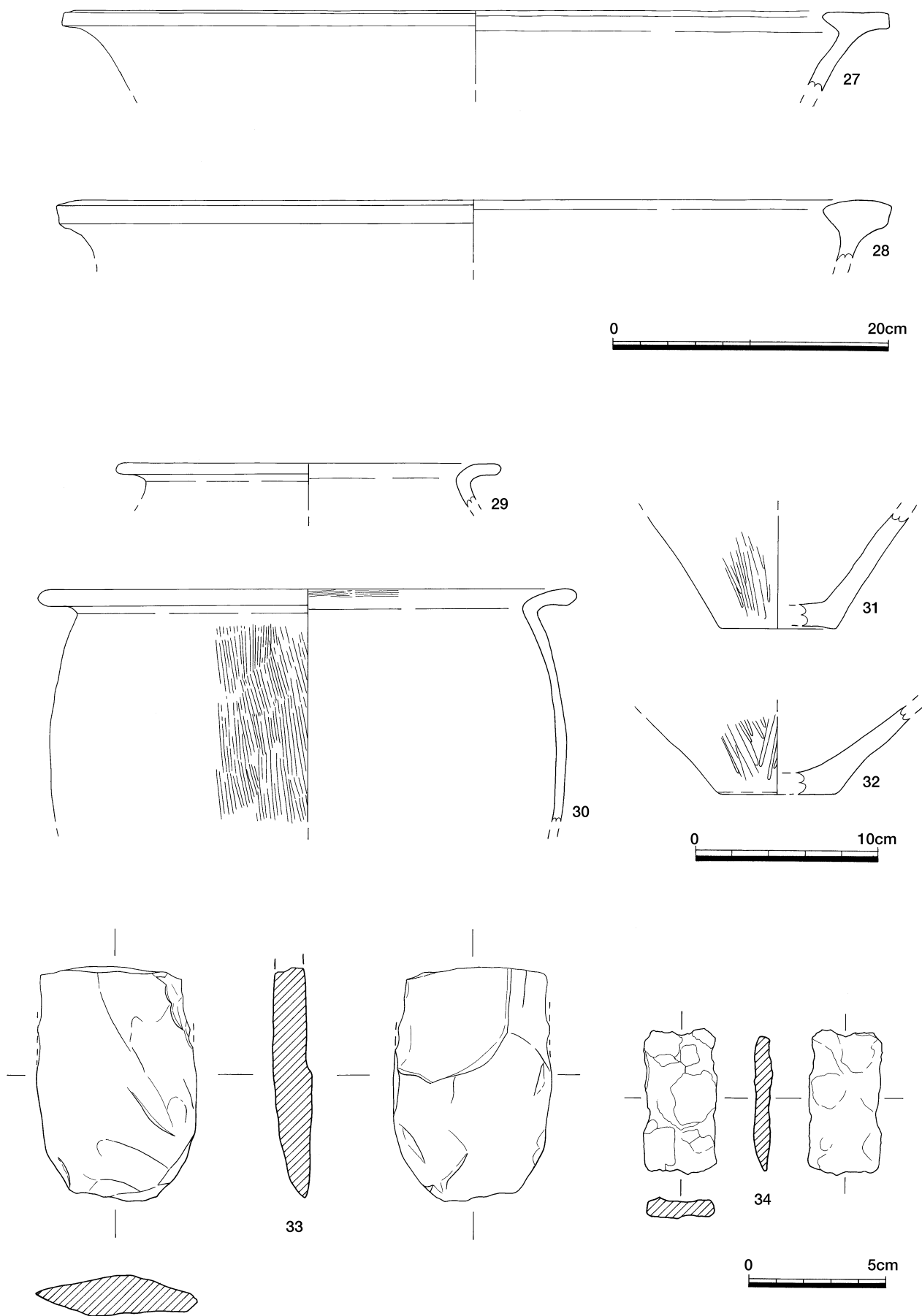


0 10cm



0 20cm

第7図 A地点出土遺物2 24・25 (1/3) 26 (1/4)



第8図 B地点出土遺物 27・28 (1/4) 29~32 (1/3) 33・34 (1/2)

出土遺物一覧表

() : 復原 < > : 残存

挿 図		遺 構	種 別	器種	法 量			色 調	備 考	登録番号
挿図	遺物				口径	器高	底径	() は内面		
6	1	ST01周溝	土製模造品	器台	(3.0)	4.5	3.2	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070046
6	2	ST01周溝	土製模造品	器台	(3.1)	5.5	3.2	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070053
6	3	ST01周溝	土製模造品	器台	—	<4.0>	3.2	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070048
6	4	ST01周溝	土製模造品	器台	—	<3.1>	3.3	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070050
6	5	ST01周溝	土製模造品	器台	—	<3.2>	2.7	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070049
6	6	ST01周溝	土製模造品	器台	1.8	2.8	2.4	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070047
6	7	ST01周溝	土製模造品	器台	(2.7)	3.2	2.5	橙色	手捏・ミニチュア	070043
6	8	ST01周溝	土製模造品	器台	—	<1.6>	(1.6)	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070055
6	9	ST01周溝	土製模造品	器台	—	<2.1>	2.4	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070051
6	10	ST01周溝	土製模造品	器台	(1.7)	2.6	1.8	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070052
6	11	ST01周溝	土製模造品	器台	(4.6)	3.3	3.4	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070054
6	12	ST01周溝	土製模造品	器台	(3.2)	3.0	3.8	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070044
6	13	ST01周溝	土製模造品	器台	(2.2)	2.1	2.2	橙色	手捏・ミニチュア	070045
6	14	ST01周溝	土製模造品	—	(3.4)	2.5	—	橙色	手捏・ミニチュア	070057
6	15	ST01周溝	土製模造品	—	(4.2)	2.0	—	にぶい橙色	手捏・ミニチュア	070056
6	16	ST01周溝	土製品	土垂	[長3.8]	[径1.1]	—	にぶい橙色	—	070058
6	17	ST01周溝	土製品	土垂	[長3.9]	[径1.2]	—	橙色	—	070059
6	19	ST01主体部埋土	土製模造品	器台	—	(2.4)	(3.7)	にぶい褐色	手捏・ミニチュア	070042
6	20	ST01主体部埋土	土製模造品	器台	2.2	2.2	2.0	橙色	手捏・ミニチュア	070041
6	21	P-1	土製模造品	器台	—	<1.8>	3.4	灰黄褐色	手捏・ミニチュア	070040
6	22	ST01下層	弥生土器	甕	(29.0)	<9.3>	—	浅黄橙色	口縁ヨコナデ・外部ハケ	070038
6	23	ST01下層	弥生土器	甕	(22.2)	<8.0>	—	浅黄橙色	口縁ヨコナデ	070037
7	24	ST01下層	弥生土器	壺	(29.2)	<11.8>	—	にぶい橙色	口縁ヨコナデ・25と同一固体?	070064
7	25	ST01下層	弥生土器	壺	—	<23.9>	—	にぶい橙色	外面ミガキ・24と同一固体?	070063
7	26	ST01下層	弥生土器	甕	(60.0)	<14.5>	—	にぶい黄橙色	—	070039
8	27	B地点包含層	弥生土器	壺	(60.0)	<1.5>	—	にぶい橙色	口縁ヨコナデ	070069
8	28	B地点包含層	弥生土器	甕	(60.6)	<4.5>	—	にぶい橙色	—	070068
8	29	B地点包含層	弥生土器	甕	(21.2)	<2.3>	—	にぶい橙色	—	070070
8	30	B地点包含層	弥生土器	甕	(29.6)	<12.8>	—	にぶい橙色	口縁ヨコナデ・外部ハケ	070065
8	31	B地点包含層	弥生土器	壺	—	<6.3>	(6.3)	赤色 (灰白色)	外面丹塗り	070067
8	32	B地点包含層	弥生土器	壺	—	<4.9>	<6.6>	明赤褐色 (灰黄褐色)	外面ミガキ	070066

挿 図		遺 構	種 別	器種	法 量			色 調	備 考	登録番号
挿図	遺物				長さ	厚さ	幅	() は内面		
6	18	ST01周溝	石製品	石剣	<3.0>	<0.6>	<2.3>	—	—	070060
8	33	B地点包含層	石製品	石斧	<8.4>	<1.4>	<5.8>	—	—	070061
8	34	B地点包含層	鉄製品	鉄斧	<5.3>	<0.6>	<2.6>	—	—	070062

1. A地点全景（北から）



2. ST01古墳（西から）



3. ST01古墳主体部（南から）



4. ST01古墳下層遺構（西から）



1. B地点全景（東から）



2. 調査風景（南から）



3. A地点出土ミニチュア土器



4. ST01古墳下層出土遺物



鳥栖市文化財調査報告書第80集

村田三本松遺跡

共同住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告書

平成20年 3 月31日 発行

編 集 鳥栖市教育委員会

発 行 佐賀県鳥栖市宿町1118番地

印 刷 株式会社 ドミックアルファ鳥栖事業所
鳥栖市元町1177-16

